ニューギニア產多足類の一斑

高　桑　良　興

東京文理科大學動物學教室

東京科學博物館動物學部新村太朗氏は昭和18年1月より7月まで西部ニューギニアに資源調査をせられたる際他の動物と共に多足類をも採集し歸來其の標品の調査を予に委囑せられたり。瘴癘の地に苦辛して之等の標本を蒐めたる氏の努力に對し深き敬意を表す。且つ之等貴重の標本査定の機會を予に與へられたる各位に謝意を捧ぐ。受領せるは脣足類關係8罎、倍足類關係9罎にして總べて29個體なり。斯くの如く多數のニューギニア產多足類標本を受領するは予には始めてにして大いなる喜びにてありしが、文獻により窺知し得る同島產多足類の種數に比すれば其の一斑と稱すべき程度にして而も倍足類には雄極めて少かりし爲種名の決定をなし得ざるもの大部分なるを遺憾とす。之等の標本は同定の結果を名票に記入して既に科學博物館にお返しせり。今罎番號、學名、和名、個體數、採集地の順に書き並べて後日の備忘とせん。

倍足類關係

1 Dinematocricus hermobius Attems 1♂ Anggadi

2 Rhinocricus sp. 1♀ Manokwari

3 Dinematocricus sp. 1♀ Waoboe

4 Dinematocricus hermobius Attems 1♀ Waoboe

5 Platyrhacus sp. 1♀ Roemabatoe

6 Platyrhacus sp. 1♀ Waoboe

7 Trigoniulus sp. 1♀ Manokwari

8 Trigoniulus sp. 1♂ Waoboe ♂なれど惜しや損傷しあり

9 Trigoniulus ? 3♀♀ Waoboe

Akamptogonus signatus (Attems) 1♂ 〃

脣足類關係

1 Ethmostigmus platycephalus platycephalus (Newport) 2箇 Waoboe

2 Scolopendra subspinipes subspinipes Leach オホムカデ 1箇 Waoboe

3 Ethmostigmus p. platycephalus (Newport) 1箇 Waoboe

4 Otostigmus (Otostigmus) astenus (Kohlrausch) ハツエムカデ 3箇 Roemabatoe

O. (Parotostigmus) bakeri Chamberlin ? 1箇 〃

O. (Otostigmus) barbouri Chamberlin 1箇 〃

5 Otostigmus sp. 2箇 Waoboe

6 Orphaneus brevilabiatus Newport ヒラタヒゲヂムカデ 1箇 Manokwari

7 Ethmostigmus p. platycephalus (Newport) 4箇 Anggadi

8 Eucratonyx homatus Pocock 1箇 Manokwari

之等の内ヤスデにては Dinematocricus, Rhinocricus は體雄偉にして例の濃褐色の液を射出し吾人の皮膚を傷ふことあり、ムカデにては Ethmostigmus, Scolopendra 又巨軀にして其の咬害を注意すべく共にニューギニアに於ける人畜有害動物の1と目して可ならん。

序を以て記す。臺北帝國大學醫學部森下薫教授が昭和18年ニューギニアにて採取し歸來寄贈せられたる1頭のムカデは前出オホムカデなりき。又臺北帝國大學醫學部岡田豊日氏が同年3月東部ニューギニアのウェワク、カイリル島等にて採集、歸京後寄贈せられたる多足類標本は總べて16個體にして其の種類は

Ethmostigmus p. platycephalus 2箇 ウェワク及びカイリル島

Otostigmus sp. 1箇 ウェワク 折損して種名まで同定致し難し

Platyrhacus sp. 1箇 ウェワク

Rhinocricus ? 3箇 カイリル島

Trigoniulus takakuwai 9箇 ウェワク

氏はニューギニアへの途次南洋パラオにても採集したるが其の2箇はナンヨウヤケヤスデ Orthomorpha (Orthomorpha) coarctata (Saussure) (2. II. 1943 採) にして他の1箇は♀なる故確定致し難きもミナミヤスデ Trigoniulus takakuwai (Verhoeff) (23. I. 1943) と看做して大過なからむ。森下、岡田兩氏の御厚志に謝意を表して擱筆す。

東亞產多足類文獻目錄 第7輯

高 島 春 雄

(1944年度分)

1 高桑良興・高島春雄——朝鮮產多足類の概觀 II——Acta Arachnol. 9-1•2: 22-32

著者等の「朝鮮產多足類の概觀」を參照する場合は是非本文を併せ用ひられたい。

此の機會に記す。高桑氏は此の年 (1944) 11月29日附理學博士の學位を授與された。多足類の研究で學位を獲た日本最初の人である。氏は明治4年2月3日生れといふことに戶籍ではなつてゐるが實際は明治6年11月30日誕生で博士になられた時實に72歲、日本で斯かる高齡で理學博士になつた御方は他にあるまいと想ふ。そして何人と雖も「何だ、そんな年になつてやつとか！」などと思ふ者は無く「よくぞ今日」と氏の晚年になつてからの御努力に讃歎の辭を惜しまぬであらう。氏は中年どころか寧ろ晚年近くなつて日本產多足類の研究に着手され爾來十有七年遂に今日の榮譽を得られた。之は中年になると研究しなくなる多くの學者への一大警鐘とならう。氏は金澤市の出身で小學校、師範學校を同地で了へられ上京して東京高師に入り明治35年卒業された。同期生で後日動物學者として著名になられた人に吉田貞雄博士がある。卒業後3年程して渡支し武昌の師範學校、中學校に教鞭をとられること4年、此の間多くの昆蟲（特に蠅）標本を蒐められた。內地に戻つて